

マッサージ

お母さんがつかれている時

ちよつとでも体が楽になること

わたしにできないだろうか？

考えた。

足のマッサージをやつてあげよう

足のうらをつかつてころがすように

力の調節をした

太もものあたりが固いぼうのようだ

「いたたたた…。」

とお母さんはさけぶ

わたしは力を弱めて

やさしくころがしました。

「まゆなかなか上手だねえ。」

うれしかった

ある日、ため息をついていたお母さんに

「マッサージしようか。」

と言うと

「おねがいします。」

つかれはてた様子でいった

今日は、体中が固い

きつとすごいつかれてんだろうな

「まゆ、将来マッサージ師になりそうじゃん。」

もつとお母さんにマッサージして

じょうずになりたい